

## 今日の説教のポイント<使徒言行録 27 章 39～28 章 10 節>

### ①見た目は大変。しかし実際は良き方向に進行中。私たちの人生も！

いよいよ難破する間際の様子が記されている箇所です。そのため、「分からなかった」「ぶつかって」「乗り上げ」「動かなくなり」「壊れ出した」と、悪い状況を示す言葉が次々出て来ます。しかし、よく考えてみると、それらは皆、陸地に近づいた浅瀬だからこそ起こった出来事に伴う言葉です。そして実際、終わってみると、全員無事に上陸できたのです！私たちの人生にもこういうことはあるものです。すなわち、それだけ見ていれば試練や災いと思えない状況。しかし、後で振り返ってみると、それは少しずつ解決に向かう歩みの中でこそ出会う試練だったなと思える状況です。だからこそパウロは、「私たちをキリストから引き離せるものは何もない。艱難も、迫害も、飢えも、裸も、危険も、死も、命も、天使も、～」（ローマの信徒への手紙 8 章 35 節以下）と語っているのでしょう。このことは、②に記す、次のマルタ島で起こった出来事の中で見せるパウロの姿をより深く理解させてくれます。

### ②信仰者パウロの姿 喜一憂せず、思いやりある生き方を坦々と！

マルタ島での話はあわただしく展開します。住民の親切なもてなし(2)。蝮にかまれるパウロ(3)。それに天罰を見る島民(4)。しかし何も起こらないパウロを神様扱いし、さらに手厚くもてなす島民(6)。病人を見ていやすパウロ(8)。その姿に感激し敬意を表す島民(10)。ここに二通りの人間の姿を見ることができます。一つは、人生で起こる一つ一つのことで騒がしく一喜一憂し、頻繁に神様や信仰的な物言いをなす人間の姿。もう一つは、何事が起こっても簡単には神様や信仰的な物言いを持ち出さず、ただ淡々となすべきことをなす人間の姿です。後者がパウロのことですが、普通考える信仰者の姿とは違いますね。しかし、この姿こそ、全ては神様の御手の中に置かれていることを確信して歩む人間の姿なのです。私たちの目指す姿です！「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに勝っている」（ヨハネ 16:23）。